

# すまじば 赤い標の町

第二十三弾 ノムさんの「四条通り」今昔編

兄弟競つてよそゆきを着て  
親に手を引かれて買い物に行き  
御馳走を食へに行つた幼い日々が甦える。  
夢も愛も、出会いも、別れも  
ここにはなんでもあるような気がする。



# 未だ知らぬ町



## 野村清孝 (42歳)

昭和25年、京都市中京区に生まれる。地元で高校までを過ごしたあと、慶応大学へ。卒業後日本橋三越を経て、生家株野村テラーに入社。現在は専務取締役。四條繁栄会振興組合の理事。

長年京都に住んでいる人、学生時代に修学旅行で訪れただけの人、また学生生活を数年送った人、転動してきた人……。とにかく、京都への縁の多少にかかわらず共通した話題があるとしたら、四條通りの思い出にはかならないのではないだろうか。京都に少しでも身を置いた人が必ず足を踏み入れるであろう四條通り。古くて新しく、ビジネスとショッピングが同居した不思議な通りはまた、時代や世相を如実に反映してきた道であった。

四條通りには明治45年から昭和47年まで市電が走っていた。当初の営業区間は西洞院から小橋まで。市電開通と相前後して道幅も南に北に拡張され舗装もされた。現在、明治以前の建物が完全な形で残っていないのはそのためである。昔ながらのたたずまいを残す

数少ない家のうちの軒が、高倉通りを西に行った南側の茶道具をあつかう『菊光屋』さん。店舗部分は四條通り拡張で半分削られたが、それでも90年近く、奥の住居部分はゆうに130〜40年は経ているとか。黒光りした大黒柱は人の顔が映るほどつやつや。建築家が、鉄筋建てよりよっぽど強い」とお墨付きを出したほど頑丈にできている。今回水先案内人をつとめてくれたノムさんも「店は昔から見えてたからよく知っていたけれど、奥がこんなにすごいとは知らなかった」と驚くことしきり。「僕は今の店がある場所で生まれて育ったんですけど、当時から市電は走っていたし、バスもたくさん行き交ってけっこう危ない道でしたからね。この近所ではあまり遊ばなかったですね。それに南と北では小学校の区域が違いま

したからね。仕事をするようになってからの付き合いが多いんです」とノムさん。本当に四條通りは以前から交通量の多い道だった。その四條通りからすべの交通手段が締め出された日があった。昭和45年の11月3日、文化の日である。題して『四條ひろば』の第一回目。全国的にみても東京・銀座に次ぐ2番目の歩行者天国だった。テーパーカットのあとにプラスチックの行進が続き、それぞれにアイスクリームを食べたり、まだ珍しかったファーストフードをほおばったり。晴れやかで心躍る一日であったことを鮮明に覚えていた。なにより楽しかったのは普段一時たりともたたずんでいることを許されない四條通りの真ん中に、好きなだけ立っていられたこと。本当にここに立って

いて大丈夫なんだろうかというかすかな不安と、体いっぱい感じる清々しい解放感、実に奇妙な感覚が今もよみがえってくるようだ。この日の人出は18万4千人。みんなが四條広場を満喫した日。この試みは今も年に一度続けられている。

歩行者天国から2年後の昭和47年1月22日、四條通りに最後の市電が走った。急激な自動車の増加と膨大な累積赤字が廃止の原因である。おそらくほとんどの京都人がこの最後の日を記憶しているであろう。朝から消える市電を惜しむ人達の乗車で電車はスシ詰め状態。沿線には最後の姿を残しておこうとするプロとアマチュアないまぜてのカメラマンが数多くむらがり、一種異様で独特の雰囲気につつまれていた。「僕たちもすごく興奮していた覚えがあ

冠者殿社を一生懸命に掃除するおじさんたち。軽口をたたきながら、実に楽しそうであった。



四條を通る人々の数を集計する機械。平均して日曜が20万人、平日で12万人ぐらい。

四條通りにある甘栗「林万昌堂」の横から少し入った所に、ひっそりとある安産院。安産の神であり、地元の繁栄を見守ってきた。



慶応ボーイらしいダンテイノムさんは高校までを四條通りで過ごした。でも町中育ちの悲しさで、辺りで遊んだおぼえはないとか。振興会の役員を勤める現在の方が、子ども時代よりずっと愛着を感じていると言っ



四  
条  
通  
り  
商  
店  
街



四  
条  
河  
原  
町  
・  
住  
友  
銀  
行  
前  
に  
あ  
る  
、  
流  
政  
之  
氏  
作  
の  
モ  
ニ  
ユ  
メ  
ン  
ト  
。



四  
条  
通  
り  
商  
店  
街  
は  
片  
道  
約  
1km、260軒ほどの商店が連なっている。  
京  
都  
一、活  
気  
に  
あ  
ふ  
れ、華  
々  
し  
い  
買

# 赤いまはす 知れば 標の町



菊光堂のショーウィンドウにはいつも季節の花が生けられていて、通る人の目を楽しませてくれる。そんな心づかいが四条商店街の心意気。



菊光堂の店内には所狭しと様々な茶道具が並べられている。今は亡きグレース王妃が来日の際に訪れられ、あらゆる茶道具を見て帰られたこともあるとか。右が店主の奥村孝さん。

昔の家は煮炊きものをする土間の部分が吹き抜けに。かつてはここに「おくどさん」があったのだろう。



店から一歩奥へ入るとそこは明治の世界。はつられただけでまっすぐではない太い柱がしっかり家を支えている。

ります。祇園祭のときのような、どっか落ちつかん雰囲気がありました」とノムさん。最終電車の走る午後10時もまわったところ、外出を許された比較的大きな子どもたちは一目でも市電を見ようと四条通りへ。外出を許されない小さな子どもたちはテレビに映し出される最後の勇姿を穴があくほど眺めていた。今にして思えば妙な光景である。が、それほど京都市民は市電に愛着を持っていたのだろう。その証拠に「広島や長崎など今でも市電が走っている町に行くと、時々京都から運ばれた電車が走っていることがあるんです。それを見かけると、なんだかムズムズして乗ってみたいくなるんですよ」と白状するノムさんのような人も、大勢いるのである。

ろう四条通り。これが多くの人が抱いている印象である。先斗町通りから烏丸通りまで、約1kmの商店街には3カ所も神社仏閣がある。全部わかる人はよほど長く住んでいるか、界限にくわしい京都通であろう。よく知られているのは四条センターの東側にある八坂神社御旅所。センターの西側にある冠者殿社はスサノオノミコトを祀る商売繁盛のれっきとした社である。一番知られていないのが新京極通りの派出所裏側にある染殿院。安産を司るそうので、近所の人々は昔からここに腹帯をもらいに行き出産に臨んだのだとか。随一の繁華街で古いものが大切にされている。古都・京都ならではの。

洋信託銀行地下にある「京都四条ギャラリー」。京都市が市内の文化財を広く市民に公開して、理解を深めてもらうと運営しているもので、心を和ませてくれる。が地下にあるため、あまり知られていないのが残念だ。ここに一枚の写真がある。明治の初めごろの、なかば消えかけたような古い写真である。祇園から四条通りをながめ下ろした写真であるが、道はもろろん未舗装で着物姿の人々が人力車に乗っている。両側に並ぶ家々はすべて瓦葺の二階屋根。この写真を見ていると、つくづく四条通りは変わったのだな、という感慨があらたになつてくる。大丸百貨店に藤井大丸：デパートと切磋琢磨して反映してきた数々の小売店が時代を競う。ここはそんな活気あふれる街へ、日々進歩を重ねている。子

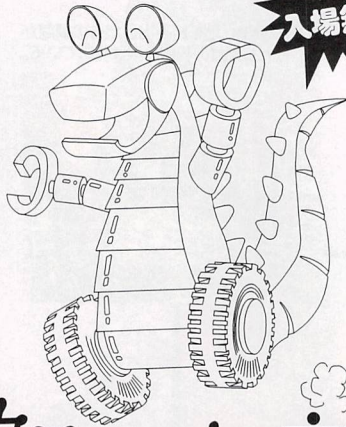
どもの頃、「おでかけ」といえば、四条へ買い物に行つて御飯を食べて帰ることを意味していた。うれしくてうれしくてウキウキして服を選ぶのめらかなりの熱の入れようであった。四条通りは誰にとつても宝石箱。今も昔も、きらきらした魅力にあふれている。もうすぐ夏がやってくる。京都人が、とりわけ四条通りの人々が心待ちにする夏がやってくる。人々にとつて夏とは7月のこと、祇園祭のこと。汗を流しながら御雛子の稽古にいそしみ、鉦を組み立て、暑い暑い一日を準備する。祇園祭は言わずと知れた日本三大祭の一つであり、全国から多くの見物客がやってくる。でも街の人々は思っている。「見ているより、聴いているより、参加するのが一番おもしろいんだ」と。



# 第7回 三菱自動車 IDEA GRAND PRIX

アイデアグランプリ

★**入場無料**



## カラフルな**希望**

**1993/5/16 (SUN)**  
**AM9:00~PM4:00 (雨天決行)**  
**京都醍醐グランドーム**

### ■アイデアカーコンテスト

夢のあるのりが勢ぞろい

### ■リサイクルアートコンテスト

壊れた車に新たな生命を

### ■絵画コンクール

『あたらしいなあ!こねなもの』

小学生の夢をちよつとのそいでみませんか



### ■リモコンロボット“のぼってポんっ”

目の前にそびえ立つ壁が相手だ

### ■ブライダルショー&写真館

ウェディングドレスを着てパチリ

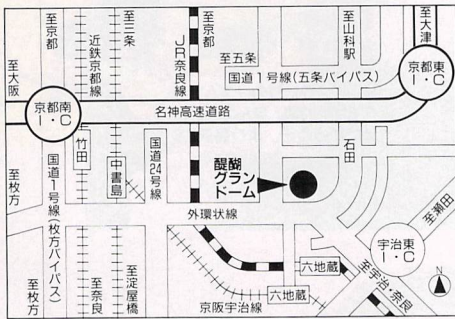
### ■オフロード体験コーナー

丸太や岩をのりこえ

オフロードに  
チャレンジ

### ■篠塚建次郎ラン&トーク

バリタカの熱い走りを再現!

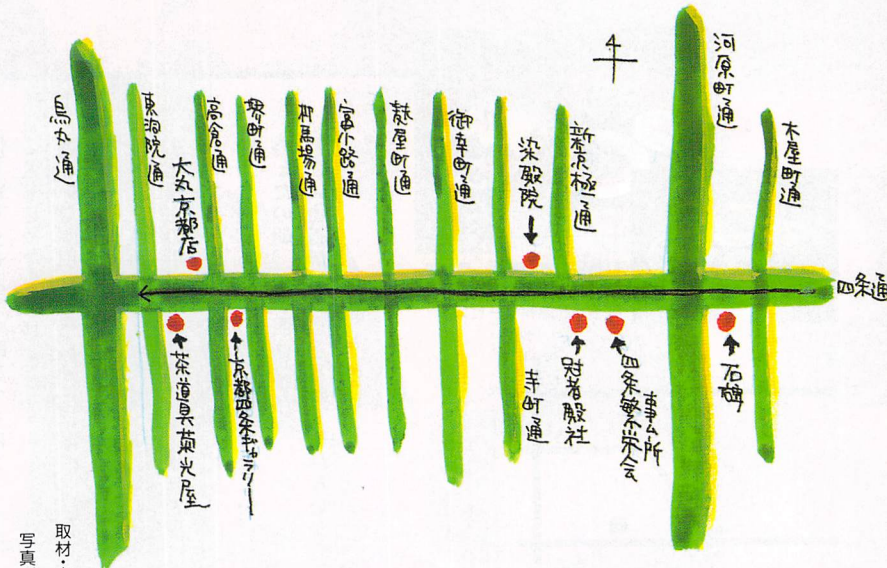


●JR奈良線「六地藏」駅より徒歩約7分。●京阪電鉄宇治線「六地藏」駅より徒歩約7分。●市バス・京阪バス「六地藏」または「小栗栖団地」徒歩約3分。  
 ●車は名神高速「京都南IC」第2出口から国道1号線を大阪方面へ。「横大路」交差点左折後約5.5km直進。駐車場あり。●シャトルバスは地下鉄および近鉄「竹田」駅より無料送迎バスをピストン運行。

シートベルトをして、スピードをひがために。安全運転は三菱の願いです。  
 \*都合によりイベントの内容が変更になることがあります。ご了承下さい。



前身である大丸呉服店が創業したのは江戸時代のこと。伏見でであった。百貨店として現在の四条高倉に開店したのは明治45年。以来、何度も改装をくり返し、今では当時の面影を残すものは高倉通りの壁面くらいである。



取材・文/小林明子  
 写真/大田メグミ